

「青年海外協力隊 現職参加」

大庭 隆さん

OBA
Takashi

もしもに備えて 子ども向けの防災教材を開発

「これまでに災害を経験したことはありませんか？」
 「去年は津波が来たよ」
 「今年も洪水があったね」
 「では、その時、どう行動しましたか？」
 子どもたちにそう質問を投げ掛けているのは、2011年6月からソロモン諸島で青年海外協力隊（村落開発普及員）として活動する大庭隆さん。ガダルカナル島にある首都ホニアラを中心に学校やコミュニティを巡回し、災害を「身近なもの」としてとらえてもらえるよう啓発活動を行っている。

JICA Volunteer Story

PROFILE

1986年千葉県生まれ。2008年に大学卒業後、キヤノンマーケティングジャパン株式会社に入社、営業部に配属。2011年6月から現職参加制度を活用して青年海外協力隊（村落開発普及員）としてソロモン諸島で活動中。

「震災の経験を経験したこと、防災の大切さを知ってほしい」

南太平洋に浮かぶソロモン諸島は地震や津波などの自然災害が多い。東日本大震災を経験した日本人だからこそ、伝えられることがある。青年海外協力隊の大庭隆さんは、この国の人々の防災意識を高めるため奮闘している。



ソロモン諸島は地形上、地震や津波、洪水、サイクロンといった自然災害が起こりやすい国。07年にはマグニチュード8.1の地震が発生し、津波で52人の命が失われた。「この時の教訓から、地震が起きると高台に避難しなければいけないことは知っている。でも、洪水に対しては、いつものこと」と危機意識が低く、正しい知識を持っている人が少ない。どの災害に対しても、その特徴や恐ろしさ、そして対策を知っておくことが大切なのです」と大庭さんは現状を話す。

大庭さんの配属先は国家災害管理局（NDMO）。災害対策や災害時の緊急対応、復旧・復興支援を管轄し、住民への啓発活動も担っている。しかし、ソロモン諸島には1000近くの島々があり、8000力以上の村が点在。テレビやラジオがすべての家庭にあるわけではない。首都を離れば電気が通っていない地域も多い。

住民一人一人が防災意識を高め、自分で自分の身を守るように。そこで大庭さんが力を入れているのが防災教育。地元の学校ではほとんど行われてこなかったため、大庭さんはNDMOの同僚と共に、まずは教材づくりに取り組んだ。そこで活用したのが、日本で使われている防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」だ。あるカードの表にはナマズが地面を揺らす地震のイラスト、裏には両手で頭をかばうアヒルのイラストが描かれている。地震が起こったら、まず頭を守ること。子どもたちに絵を見せて、やるべき行動を覚えてもらい、災害時の対応を「楽しみながら」身に付けることができる。現在は日本語版をそのまま英訳して使っているが、今後はソロモン諸島の文化に合わせてイラストや内容を変えていく予定だ。



a. イベントで防災についてのブースを出展し、洪水の予測に活用する水位計について来場者に説明
 b. 子どもにも分かりやすいよう、イラストを多用して作成した教材の一例
 c. 仕事や学校がある住民も参加できるよう、夜に開催したワークショップで東日本大震災の教訓について発表
 d. 東日本大震災の写真展では、現地の人々は食い入るように写真を見ていた

ソロモン諸島の人々に伝えたい被災地・日本からのメッセージ

実は大庭さんも、ソロモン諸島に来るまで防災については「素人」だった。大学では臨床心理学を専攻し、卒業後に入社した民間企業ではコピー機などを販売する営業マンとして活躍。しかし日々の仕事に追われる中、学生のころからずっと抱えてきた「世界で起きている問題を自分の目で見て解決したい」という思いが膨らみ、現職参加制度※を活用して協力隊に応募した。

日本人が防災について伝えることに意味がある。大庭さんはそう考えている。その理由は、東日本大震災を経験したから。東京にいたとはいえ、震災当日に帰宅難民になり、その後も計画停電の影響を受けるなど、生まれて初めて大災害を「体感」した。さらに、被災地となった宮城県石巻市も訪れ、地震と津波の被害を目の当たりにした。災害の本当の恐ろしさは、体験した者でないと分からない。「ソロモン諸島の人々にとって、私は日本という被災地から来た人間。日本で起きたことを伝えることが、防災の大切さの理解につながると思っています」と大庭さんは話す。

そこで大庭さんは、東日本大震災時の津波の恐ろしさや教訓を伝える写真展やワークショップを開催し、地域住民にも正しい知識を知ってもらえるように工夫している。こういった防災意識の向上を目指す活動は同僚からも好評で、「オバはNDMOの大事な仲間」とうれしい言葉をもらった。活動期間は残り9カ月。NDMOのスタッフが自分たちの手で防災の啓発活動を行えるよう、全力でサポートしていきたいと考えている。



手作りの教材を使い、災害が起きたらまずどう行動すればいいかを学校で説明する大庭さん

※現在職業を持っている人が、休職などの形で所属先に身分を残したままJICAボランティアに参加する制度。